

研修会報告

令和4年2月21日

文責：佐藤 正樹

研修会テーマ「病理組織と画像」

開催日時 令和4年2月19日（土）13:00～17:00

会場 ZoomによるWeb研修会

司会 千崎 久美子

生涯教育点数 専門教科20点

参加者 会員参加者 71名 入会申請中会員 名 非会員6名（メーカー）

賛助会員 名 学生 名

合計 77名

講演1「今後の画像診断」

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 筒井 康弘 先生

講演2「フリーソフト ImageJ を使用した病理・細胞診領域の画像解析」

秋田大学医学部附属病院 伊藤 智 先生

講演3「臓器の撮影方法」

杉研商事株式会社 小山内 修 先生

講演4「デジタルカメラによる顕微鏡画像の撮影方法」

オリンパスマーケティング株式会社 石井 雄彦 先生

講演5「自施設における病理画像撮影方法の紹介」

宮城県立がんセンター 植木 美幸 技師

大崎市民病院 高野 託願 技師

内容

今回は「病理組織と画像」というテーマで研修会を開催した。

講演1、2では画像解析について講演いただいた。病理、細胞診などの形態学については主観や地域、施設ごとの表現の差などがあり評価がとても難しい面が存在する。画像解析で客観的なデータを抽出することで組織や細胞に通常とは違った面からアプローチすることは今後の我々の業務や研究にとって非常に有用な方法である。秋田大学の伊藤先生より、画像とPCさえあれば誰もが画像解析に触れることができるということでImageJを用いた画像解析法について講演いただいた。今回はソフトのダウンロード方法や役に立つプラグインの紹介などの初歩的なことから、免疫染色の濃度、細胞数のカウント、細胞の特徴の抽出などの方法を講演いただいた。ImageJを使用した画像解析は画像解析の目的ありきで方法の探索と学習をやっていかないと身につかないものと感じた。ロシュ社の筒井先生からはロシュ社のHER2や

ER、PgR、Ki-67の免疫染色やHER2DISHの解析の講演していただいた。染色機器からWSIの取り込み機器、解析ソフトの全てが一つになって初めて解析が機能するという話であって導入のハードルは高そうであったが、精度管理上では理にかなった商品であり、画像解析をするに当たって標本のクオリティが非常に大切であることが示唆された。

講演 3、4 では杉研商事株式会社の小山内先生からは臓器の撮影方法、オリンパスマーケティング株式会社の石井先生からはデジタルカメラによる顕微鏡画像の撮影方法の講演をしていただいた。臓器の撮影は市販のデジタルカメラを使用するが、通常の写真撮影法とは異なる方法やテクニックがある。また、顕微鏡写真の方法についてもカメラの構造から撮影手順まで詳細に説明された。自施設の撮影方法で悩んでいる方々より質問が寄せられていた。

講演 5 では自施設における病理画像撮影方法の紹介というテーマで宮城県立がんセンターの植木先生と大崎市民病院の高野先生に講演いただいた。各施設の写真撮影などの考え方や運用方法を詳細に説明いただいた。他施設の運用方法について知見を得ることは非常に重要であると感じた。

臓器のマクロ撮影から顕微鏡写真、画像解析まで幅広い内容であり病理、細胞診に携わる技師にとって非常に興味深い内容であった。県内外から多数の参加をいただき盛況であった。